

国立民族学博物館研究報告 vol.8-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	8
号	4
発行年	1984-03-28
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009239

1983・12 8_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告

●
西欧人のキモノ認識——大丸 弘

アチック民具研究の道すじ
——收藏状況とのかねあいにおいて——中村俊亀智

セネガルの舞踊と日常動作の関連に関する研究ノート——小川 了



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

8 卷 4 号

1983年12月

目 次

西欧人のキモノ認識	大丸 弘.....707
アチック民具研究の道すじ —収蔵状況とのかねあいにおいて—	中村俊亀智.....839
セネガルの舞踊と日常動作の関連に関する研究ノート	小川 了.....865
彙 報879
国立民族学博物館研究報告 8 卷総目次880
国立民族学博物館研究報告寄稿要項881
国立民族学博物館研究報告執筆要領882

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 8 No. 4

December 1983

DAIMARU, Hiroshi	Western Perspectives on the Kimono.....	707
NAKAMURA, Shunkichi	The Attic Museum, its Contribution to Japanese Ethnology	839
OGAWA, Ryo	A Note on the Relationship between the Dance Movements and Everyday Activity.....	865

彙 報 (昭和58年7月～
昭和58年9月)

評 議 員

氏 名	任 期
石井 良助	(57. 9. 15～59. 9. 14)
伊地智善継	(57. 9. 15～59. 9. 14)
市古 貞次	(57. 9. 15～59. 9. 14)
岡本 道雄	(57. 9. 15～59. 9. 14)
木田 宏	(57. 9. 15～59. 9. 14)
北村 甫	(57. 9. 15～59. 9. 14)
窪 徳忠	(57. 9. 15～59. 9. 14)

久山 康	(57. 9. 15～59. 9. 14)
斎藤 正	(57. 9. 15～59. 9. 14)
沢田 敏男	(57. 9. 15～59. 9. 14)
鈴木 尚	(57. 9. 15～59. 9. 14)
土田 直鎮	(58. 8. 1～59. 9. 14)
直江 広治	(57. 9. 15～59. 9. 14)
中尾 佐助	(57. 9. 15～59. 9. 14)
林屋辰三郎	(57. 9. 15～59. 9. 14)
馬淵 東一	(57. 9. 15～59. 9. 14)
向坊 隆	(57. 9. 15～59. 9. 14)
山村 雄一	(57. 9. 15～59. 9. 14)
山本 達郎	(57. 9. 15～59. 9. 14)

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
江口 一久	助教授 (第3研究部)	58. 7. 15	58. 8. 30	カナダ, アメリカ合衆国
大塚 和義	助教授 (第1研究部)	58. 7. 25	58. 7. 31	ソビエト社会主義共和国連邦
梅棹 忠夫	館 長	58. 8. 6	58. 8. 20	中華人民共和国
中牧 弘允	助 手 (第1研究部)	58. 8. 8	60. 5. 2	アメリカ合衆国, ブラジル, ペルー
祖父江孝男	教 授 (第1研究部)	58. 8. 14	58. 8. 20	アメリカ合衆国
守屋 毅	助教授 (第1研究部)	58. 8. 16	58. 9. 5	アメリカ合衆国
佐々木高明	教 授 (第2研究部)	58. 8. 16	58. 9. 5	アメリカ合衆国
石毛 直道	助教授 (第4研究部)	58. 8. 17	58. 8. 30	中華人民共和国, 香港
大森 康宏	助 手 (第3研究部)	58. 8. 17	58. 9. 6	カナダ, アメリカ合衆国
ラドル・ケネス	助教授 (第5研究部)	58. 8. 17	58. 9. 19	中華人民共和国, 香港
宮本 勝	助 手 (第2研究部)	58. 8. 19	58. 8. 30	カナダ
崎山 理	助教授 (第5研究部)	58. 8. 22	58. 8. 30	中華人民共和国
野村 雅一	助教授 (第5研究部)	58. 8. 27	58. 10. 25	スイス, イタリア, ギリシア
伊東 一郎	助 手 (第3研究部)	58. 9. 5	58. 10. 6	ソビエト連邦, ユーゴスラヴィア, ブルガリア
君島 久子	教 授 (第1研究部)	58. 9. 15	58. 10. 3	中華人民共和国
石森 秀三	助 手 (第4研究部)	58. 9. 18	58. 11. 17	アメリカ合衆国太平洋信託統治領 ミクロネシアヤップ島
大塚 和夫	助 手 (第3研究部)	58. 9. 23	58. 10. 20	エジプト

来館者抄

8月4日	Chris WANJARA (ケニア共和国, ナイロビ大学上級講師)
25日	梅原 猛 (京都市立芸術大学 長)
9月1日	Barbara G. ANDERSON (米国, Southern Methodist University 教授)
6日	Andreas KRONENBERG (ドイツ 連邦共和国, フランクフルト大

9日	Reinhard DRIFTE (スイス連邦, ジュネーブ大学国際問題高等研 究所教授)
20日	Claude MEILLASSOUX (フラン ス共和国, フランス国立科学研 究所: CNRS 研究員)
26日	Gopal S. POHEKAR (インド, ボンベイ印日協会理事長)

国立民族学博物館研究報告 8巻 総目次

8巻1号

千葉 正士：法学における慣習法概念	1
石井 米雄：タイの伝統法 ——『三印法典』の性格をめぐって——	18
北原 淳：『マンラーイ法典』における土地侵犯と所有	33
吉川 利治：東北タイ及びラオスの古代法 —— <i>Kotmai Khosarat</i> を中心に——	51
中牧 弘允：日系キリスト教会の展開と日系キリスト教徒の意識 ——カリフォルニア州サクラメントの事例——	73
TACHIKAWA, Musashi: A Hindu Worship Service in Sixteen Steps, <i>Shodasa—upacāra—pūjā</i>	104

8巻2号

畑中 幸子：部族社会における近代政治の過程	197
千葉 徳爾：中部日本白山麓住民の季節的放浪慣行 ——牛首地区の事例を中心に——	253
三枝 幸裕	
吉田 集而：会話場面における人の概念の類型論(Ⅱ) ——その類型と類型的世界的分布——	307
庄司 博史：ウラル語族における等位表現の類型	424
小谷 凱宣：ベリンジアからみた新大陸文化起源の諸問題	489

8巻3号

黒田 悦子：庶民生活の論理と表現 ——スペイン、南部エストレマドゥーラの町の例から——	531
大塚 和夫：下エジプトの親族集団内婚と社会的カテゴリーをめぐる覚書	563
中村俊亀智：アチック・ミュージアムの足どり ——収蔵原簿の分析から——	587
小川 了：「悪童物語」の展開	613
加藤 九祚：カザフ族の遊牧生活	653

8巻4号

大丸 弘：西欧人のキモノ認識	707
中村俊亀智：アチック民具研究の道すじ ——収蔵状況とのかねあいにおいて——	839
小川 了：セネガルの舞踊と日常動作の関連に関する研究ノート	865

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 8卷4号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

加 藤 九 祚

〔編集委員〕

伊 東 一 郎

ケネス・ラドル

杉 村 棟

竹 村 卓 二

友 枝 啓 泰

垂 水 稔

長 野 泰 彦

藤 井 龍 彦

松 澤 員 子

和 田 正 平

昭和 59 年 3 月 28 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 8卷4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol. 8 no. 4
December 1983

- DAIMARU, Hiroshi **Western Perspectives on the Kimono**
NAKAMURA, Shunkichi **The Attic Museum, its Contribution to
Japanese Ethnology**
OGAWA, Ryo **A Note on the Relationship between
the Dance Movements and Everyday
Activity**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X